

# はぐるじんじやにし 羽黒神社西遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成 26 年 11 月 8 日

## 調査要項

遺 跡 名	羽黒神社西遺跡(平成 25 年度登録)
所 在 地	山形県村山市大字名取字清水
時代・種別	縄文時代・集落跡
起 因 事 業	東北中央道(東根～尾花沢間)
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成 26 年 5 月 19 日から 11 月 18 日まで
調査面積	4,300㎡
調査担当者	調査研究員 大場 正善(現場責任者) 調査研究員 長谷部 寛 調査員 阿部 明彦
調査成果	(11 月 8 日現在)
検出遺構	盛り土遺構 フラスコ状土壇 土壇 石囲い炉 土器敷き石囲い炉
出土遺物	縄文土器(早期:押型文・条痕紋・尖底、中期:大木 8b 式) 土偶 袋状土製品 円管形土製品 石鏃 石匙 錐形石器 異形石器 ヘラ形石器 磨製石斧 剥片 石核 石皿 磨石 凹石 須恵器 砥石



遺跡位置図 (1/25,000)

## 1 調査の概要

**遺跡の立地** 羽黒神社西遺跡は、村山市名取字清水にあります。遺跡は、最上川の難所・三ヶ瀬の一つ「隼の瀬」の南から約 1.8km 離れた、河島山丘陵の東側に舌状に張り出した丘陵地に立地しています。遺跡周辺は、「清水」という字名が示すように、近隣に湧水する場所がいくつか認められます。北西に約 4km 離れた同市富並には、縄文時代中期の環状集落跡として著名な西海淵遺跡があります。そのほか、市内の湯野沢の中村 A 遺跡、土生田の落合遺跡など、本遺跡の近くには縄文時代中期の遺跡が多く存在します。

**調査範囲** 今回の調査は、東北中央道建設(東根～尾花沢間)工事に伴い、遺物が採集できる範囲、約 4,300㎡の調査となります。事前の試掘調査では、縄文中期の土器(大木 8b 式)が多量に発見されました。そのことから、本遺跡は、縄文時代



写真 1 遺跡遠景(南から)

中期の集落跡などの性格であることが予想されました。今回は、調査範囲のうち、西側の 1 区と 2 区を中心に調査を進めました。東側の 3 区と 4 区についても調査を進めましたが、遺構の具体的な調査は、次年度以降に行う予定です。



写真 2 4区遺物集中部での作業の様子

## 2 発見された遺構と遺物

**1 区** 1 区は、戦後すぐに桑の植樹が行われたことを示す溝が、十数条認められました。そのため、1 区は、戦後の土地改変によって、遺跡の一部が壊されていることが判明しました。

**3 区・4 区** 調査では、形や紋様から縄文時代中期(約 4,500 年前)に位置づけられる縄文土器片(大木 8b 式)が、3 区と 4 区で大量に発見されました。大木 8b 式土器の 1 段階古い大木 8a 式も少量含まれていますが、大半が大木 8b 式であることから、中期の中ごろのごく短期間に大半の遺物が残されたと言えます。大木 8b 式土器とともに、石器などの遺物も出土していることから、土器以外の遺物も縄文中期中ごろのごく短期間の所産であると考えられます。今後、炭素 14 年代測定法などによって、遺跡の具体的な年代について、追求していく予定です。

**遺 構** 発見された遺構は、3 区で 10cm 程度の石で囲った 1 基の石囲い炉や石で囲った内側に土器片を敷き詰めた 1 基の土器敷き石囲い炉、1 区の丘陵の尾根で、径約 1.5m、深さ約 2m の 4 基のフラスコ状土壇(そのうち、2 基は重複している)、1 基の陥し穴と考えられる土壇があります。また、土を埋め立てて整地した痕跡も発見されました。それから、特に調査区の東側の南斜面と北斜面では、大量の土器片と石器などの遺物が密集する集中部も認められました。

**遺 物** 発見された遺物は、大量の縄文時代中期の土器片とともに、大きな石皿や磨石、敲き石といった礫石器のほか、磨製石斧と、石鏃や石匙、

錐形石器、ヘラ形石器、異形石器などの打製石器があります。大量の土器に比べて、打製石器が少ないことも特徴的です。山形県内は、最上川流域の河川で、石器の素材となる珪質頁岩が豊富に産出しており、寒河江市や大江町付近を中心に、石器を集中的に製作した遺跡が多く存在します。しかし、遺跡の近隣では、珪質頁岩が採れませんので、そのような環境が打製石器の少なさに表れていると考えられます。

**土器・土製品** 土器は、総じて装飾性が高く、深鉢形や浅鉢形をしたもの、大きさもかなり大型のものからミニチュアなものまであります。土偶は、5 体、あるいは 6 体発見されており、そのうち 1 体は完全な形に復元できます。もう 1 体は、脚部のみしか発見されていませんが、大型で、精巧な文様が施されています。国宝・西ノ前遺跡出土「縄文の女神」と同じ形と考えられる土偶も、腰部のみですが出土しました。また、土笛と思われる袋状土製品や円管形土製品も出土しております。

**早期の遺物** このほか、中期の遺物が出る地層よりも下の地層からは、より古い縄文時代早期(11,000～7,000 年前)の押型文土器や条痕紋土器、尖底土器などの遺物が出土しました。当該地点が、中期よりも早く早期のころに、生活の場として利用されていたことが伺われます。

**古代の遺物** また、ごくわずかですが、須恵器や古代のものと思われる砥石が発見されました。近隣の清水遺跡では、当センターの調査により平安時代の遺跡であることが明らかになっており、平安時代に当該地点にもその足跡を残していた可能性が考えられます。

## 3 今後の展望

本遺跡の調査では、縄文時代中期中ごろの遺物が大量に出土しました。その一方で、遺構については、遺物量に比べて少ないと言えます。今後の調査範囲の東側の調査によって、住居跡などの何らかの遺構の存在が判明すれば、当該地における縄文時代中期中ごろの生活の様子が明らかになるでしょう。



1区: フラスコ状土壌の断面



4区: 袋状土製品 (土笛?)



4区: 土偶



4区: 遺物集中部検出状況



4区: 遺物集中部検出状況



1区: 重複するフラスコ状土壌



1区: 陥し穴と考えられる土壌



3区: 遺物集中部検出状況



3区: 土器



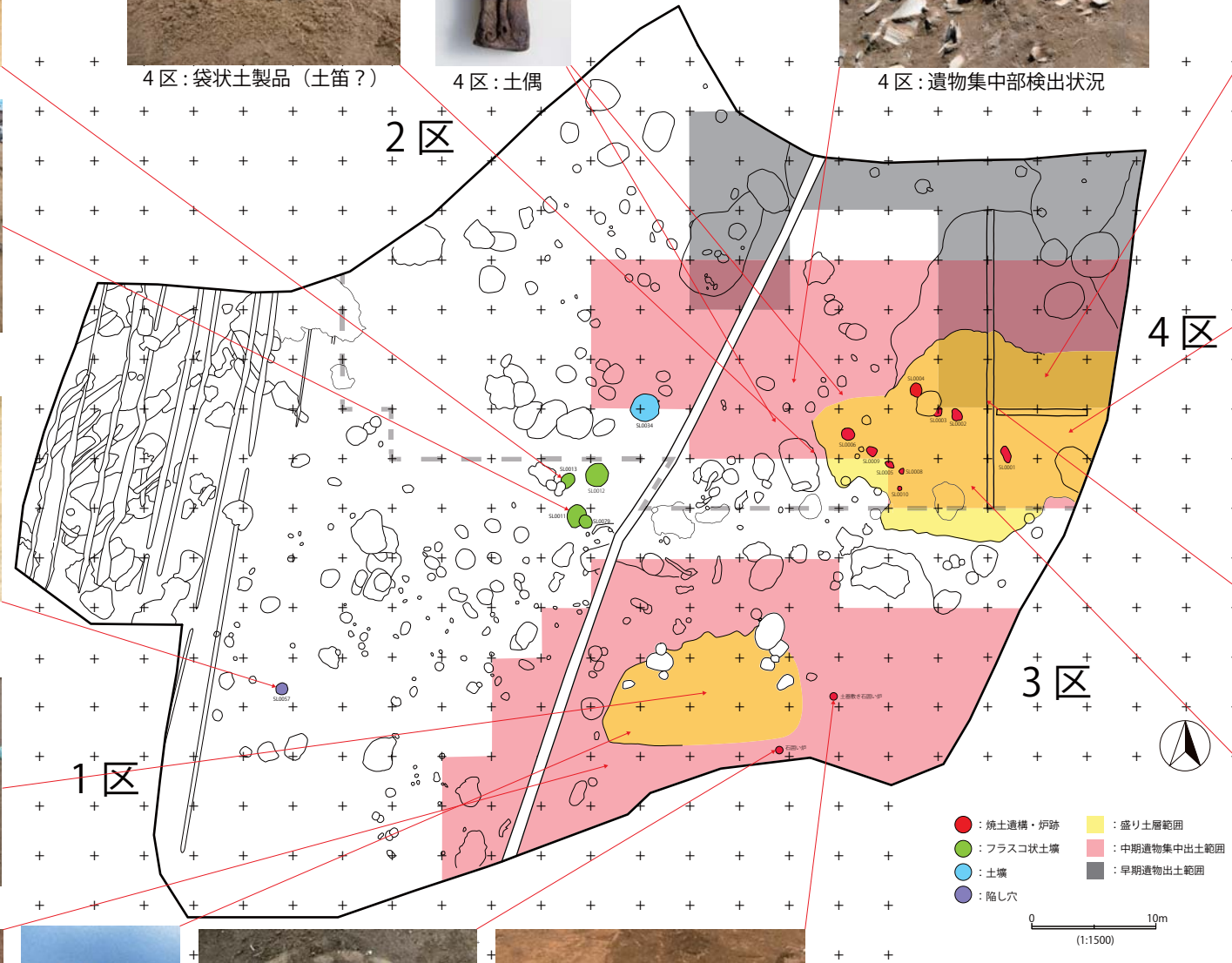
3区: 土偶



3区: 石囲い炉



3区: 土器敷き石囲い炉



4区: 「縄文の女神」と同形の土偶



4区: 盛り土層 (黄褐色の粘土層)



4区: 土偶腿部